

アメリカザリガニ



要注意外来生物

町内全域

(撮影：桐原真希)

みなさんは、ザリガニ釣りをしたことがありますか？私は、昨年6月に初めてザリガニ釣りを体験しました。某ため池では、コンクリートの護岸を赤く染めるほどのザリガニが見え、そこに釣り糸を落とすと、1時間で百匹以上も釣れました。引きの感触の面白さ、釣り上げるときのかけひき、ザリガニ釣りがこんなに楽しいとは、30才半ばを過ぎて知りました。しかし、アメリカザリガニについてよく調べてみたら、かなり深刻な事態であることが分かってきました。

昭和2年5月12日、今から83年前のこと、日本に初めてアメリカザリガニがやってきました。その数20匹。その後、彼らは日本列島全域に生息地を拡大しました。その進出成功の理由の一つとして、天敵が少なく、ザリガニのふるさとの湿地帯と、日本の水田地帯とがよく似ていたことがあげられます。

ザリガニは、オタマジャクシやトンボの幼虫、ゲンゴロウ類の幼虫など様々な水辺の生き物を捕食します。特に水草を食い尽くしてため池

の浄化能力を低下させたり、護岸に穴を開け岸際が崩壊しやすくなったりと、やっかいな側面があります。その一方で、世界各国で食用になつており、フィンランドやオーストラリアなどでは日常食だそうです。私は、ザリガニを1週間泥抜きして、日本酒に20分ほど漬けて、沸騰したお湯に塩を一さじ入れ、茹でてみました。まるでプチロブスターのような姿、味はエビとカニが合わさったようなもので、別名エビガニの名に納得です。

アメリカザリガニは、要注意外来生物として扱われています。みなさんがザリガニを捕まえたなら、ペットとして飼育する、食材にする、肥料にするなどで、元の自然に戻さないようにしましょう。食べる時は、サワガニやタニシと同様に寄生虫の心配がありますので、5分以上しっかり加熱して下さい。南部町の本来の自然の豊かさにつながる「ザリガニ釣り」、小さなお子さんは、必ず大人の人と一緒に釣きましょう。

自然観察指導員 桐原真希